

黒部川扇状地のカイニョをみて砺波を考える

7 月 4 日(土)、心配した雨もあがり、終日好天の中、黒部川扇状地の屋敷林見学を行った。参加した 25 名は、始めてふれる土地の自然と風土からたくさん刺激をうけた。

見学内容は、杉沢の沢スギ林、屋敷林は市岡美望さん宅(道市地区)、沢田公晴さん宅(古黒部地区)、昼食は梶山公民館、その後、舟見城跡に登り黒部川扇状地を一望した。当日は、黒部川扇状地研究所事務局長 吉島雄一さんと同所員本瀬薫さんに案内してもらった。

見学会は、1) 扇状地に広がる散村の比較、黒部と砺波の違いと内容。2) 屋敷林の現況と特徴。景観がもとめられる時代に順応するカイニョ住人のありよう。3) 入善のカイニョと付き合い住人の声にふれること。等に主題をおいた。



本瀬さんより沢スギの成立状況を聞く(沢スギ林内)

人間とかかわった天然記念物・沢スギ林



黒部川扇状地研究所事務局長 吉島さんより沢スギの概況を聞く

杉沢の沢スギ林(2.7ヘクタール)の案内を吉島、本瀬の両氏から受けた。特に本瀬さんは、現地の主といわれる方で、保存されている現状を丁寧にわかりやすく説明された。主な内容は次のとおり。

- ・ 沢スギは扇状地末端の旧河道域のくぼ地に出現したもの。透水性がよく、湧水量の多いところにスギが育った。その一部として杉沢の現地を残した。水量減、温暖化、少雪で沢スギの生息環境は大きく変わってきた。
- ・ 昔は燃料源として大事だった。湧水のあるところにスギが育った。昭和 37 年からの耕地整理で急変した。
- ・ 海に出て、約 1 キロのところに(水深 40 メートル)海底林があり、クリ、ハンノキ等が生息した。黒部川の伏流水によるもの。
- ・ 平成 16 年台風で、420 本のスギが倒木した。(約 3,500 本のスギのうち)——スギの根張りは、浅く、狭い。
- ・ 枝打ちしないと根が支えきれない。伏条更新で、枝から石の上に根が出て立ち上がっている。非常に成長は遅い。
- ・ 昔は音をたてて湧水していた。そこにアメンボ、トンボが沢山生息した。
- ・ 林内には、かつての黒部川の川原跡を見ることができる。丸い石の上に根を張っている。養分は表層のみで根あがりが多い。
- ・ 林内にタブノキの大木が一本入っていた。放置しておく、このように植生が変わっていく。人間によってスギを大事にし、他樹種を整理してきたから、沢スギ林ができた。
- ・ オニグルミの種はアカネズミの餌になっている。
- ・ 林内には、暖地性の植物と山地性の植物が入りこんでいる。
- ・ 杉沢の沢スギは昭和 48 年に国指定天然記念物となった。

入善町内の二つの屋敷林・扇史部の典型

入善町内・黒部川扇史部の昔からのカイニョと人の関わりを残す典型的な屋敷林を見学した。

〈市岡美望さん宅〉

- ・ 屋敷林の構成樹種・クロマツ、アカマツ、ヒマラヤシイダ、スギの相観。家屋全体を大小の樹木でつつむ。屋敷林は広くゆったりしている。屋根にたまったマツ葉等が重なり、その上に草木がはえていた。
- ・ 市岡さんのお話し
管理が大変で、若い者は勤めでいっぱい。一人で前庭を少しはくのが精一杯。枝おろしも必要だが、とても手がかけられない。燃やせないことが痛手だ。ここの土地柄、集落単位でそれぞれの家の風上側に大木を植えた。こうしたカイニョは維持したいが、管理がひどく、むずかしい。まわりの家のカイニョはみんななくなった。カイニョは大事なものだ。しかし、老人一人では手におえない。

〈沢田公晴さん宅〉

- ・ 旧家で、昔は広川様とよんできた家だ。現敷地の数倍の広さだった。
- ・ 古黒部地区は、朝日町との境で、江戸初期に村ができた。
- ・ 黒部川の本流が西へふって、ここは先に安定した土地だ。黒部川の河床よりも相当低い。
- ・ 水防のため、家のまわりに大きく広い土塀、土るいをつくった。まわりの土を掘上げたところを遊水区域にした。土るいの上にタケを植えた。
- ・ 現在、ケヤキ、タブ、エノキ、シロダモ、アカマツ、ヤブツバキの安定した林叢をつくる。家屋の西～北面に広いタケ林が見事だ。その間にしっかりした道が入り、軽四もゆったり通れる。東面に庭木が入る。家屋はすっぽりカイニョに囲まれ、外から見えない。
- ・ 広い屋敷林だが割合い手がかけられていた。
- ・ まわりの家々には、ほとんどカイニョは見られず、沢田宅の存在は異様に注目された。サギ等のねらい場になりはしないか心配だ（いや、人が住んでいて手がかけられているとサギは近づかないのかもしれない）

■参加者の声

N：はじめての土地で沢スギ林には驚いた、屋敷林は砺波の方はまだ多いように思った。

O：タケ林で、家を水から守った形はすごい。

I：屋根に松葉がたまっていたが、掃除手伝いに行ったらよいのではないか。

K：楽しい見学会でした。

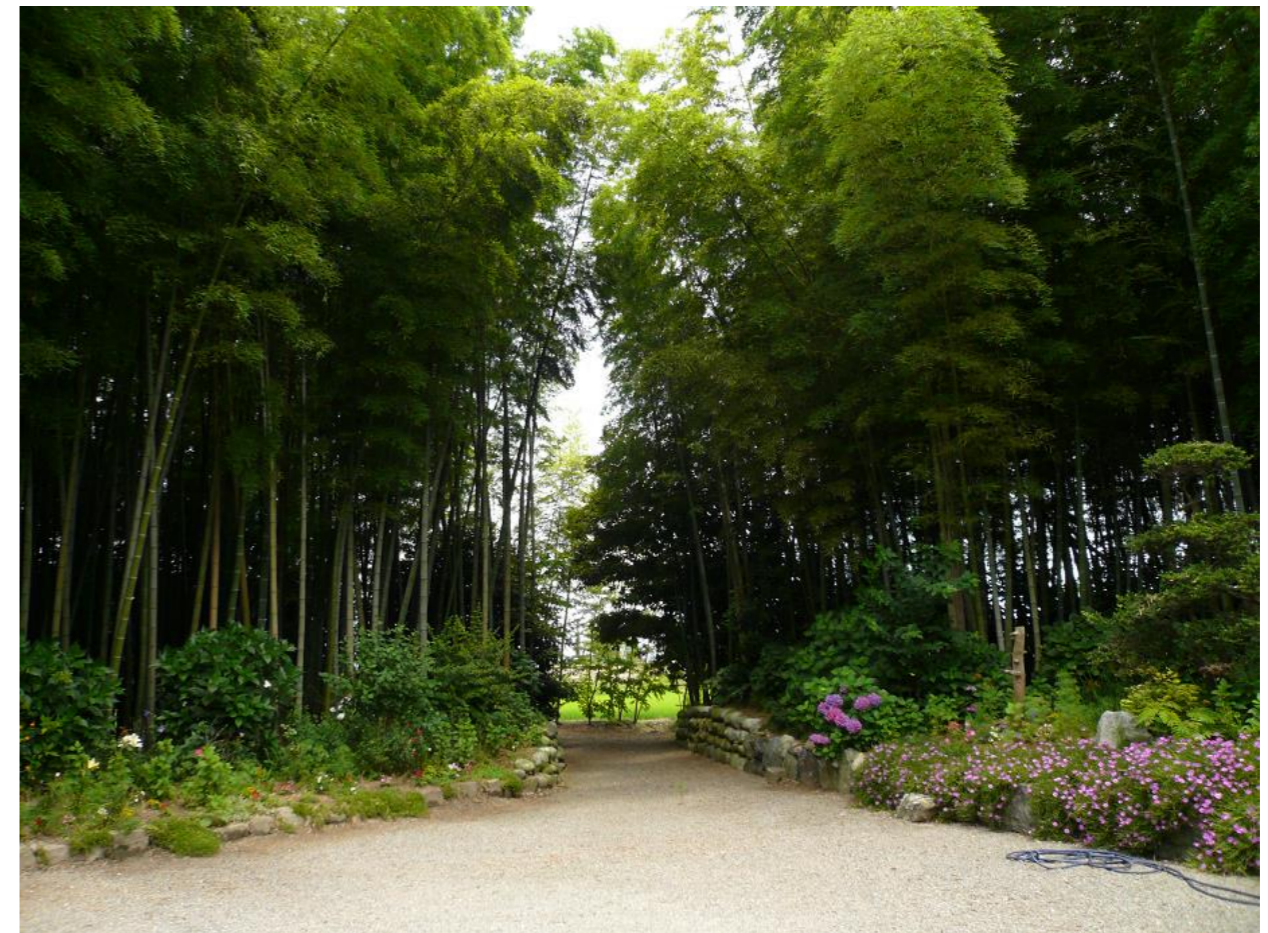
参加者の皆さんに急遽感想をもとめました。

(①沢スギについて ②カイニョについて ③黒部散村と砺波散村を比較して ④その他)

沢山の感想・ご意見を頂き、別紙にまとめました。大いに参考にしていきたいものです。



(マツ中心の市岡さん宅の屋根にマツ葉が沢山)



(沢田さん宅の竹林がすごい)

黒部川扇状地の屋敷林見学会の感想

1) 沢スギ林について

- ・以前から見学したいと思っていた。
- ・自然のなせる技と大切にされている様子を見て感激。
- ・変化の多い環境の中で保存のためのご苦労に頭が下がる。
- ・農業のほ場整備事業で大切な場所が無くなっている今日この頃、地元の方が上手に残したことに感心。
- ・ボーリングにて新しい冷たい水を手に入れ、運営管理に驚きました。
- ・水量が少なくなったように思われ、環境が悪くなったように感じた。
- ・始めてみました。水中で観葉植物の様に、スギが育ち美しい姿に驚きました。
- ・維持管理が大変だと思います。 お金をかけることは無いと思います。
- ・人間の勝手（開発）による弊害が、沢杉の群生地をこれまで減少させてしまった。今後は、この状態を維持するために人間が、沢杉に恩返しをすべきである。NHKで立山杉の特集があり感銘した矢先の今回の見学会で複雑な思いで沢杉を見ていました。
- ・10数年前に訪れた時は、もっと多くの伏条更新された杉を見たように思っていたのですが、少なくなったように感じました。 同じところを再び訪れるのも感慨深いものです。
- ・沢スギにつき、ある作家の絵を思い出しました。すごく神秘的に描かれその風景と同じ所に居るんだと実感しました。
- ・生息状況や保存することの苦労などを聞き大切な自然財産と、痛感しました。
- ・基盤整備であれだけでも残ってよかった。
- ・わき水が少なくなったのが気になる。
- ・砺波のカイニヨのスギも根が浅ければ、沢スギの様に助けられたものも多かったと思う。人間の手によって貴重なものが失われていくのが寂しい。
- ・湧き水の中に杉林が一带になっているのが素晴らしい。
- ・米作・米作と叫ばれている時期に、沢スギ林を残そうとされた先人に感謝。
- ・根腐りもせず、水面に触れた幹から根が出て成長する。不思議。葉の表面積は決して広くないのに、水をあれほどほしがるとは知らなかった。スギについて再度学ぶべき。
- ・かつての自然の姿の一部が残されていることは良いことだ。しかし、維持し続けることは大変だ。手間がかかることを了となすことが大事だ。
- ・保護管理が大変。温暖気象変化の対応に頭が下がる。海岸に近いこともあり、塩害が心配。
- ・杉も松も生きている。 そのお陰に感謝。 昔の人はカイニヨで育った木を活用した。
- ・昔の沢スギの姿は無いが、残された今の形はどう変わっていくのか注目。

2) 屋敷林（カイニヨ）について

- ・砺波地方と違う屋敷林をみて、どちらも一朝一夕に成り立つ物ではなく、その風土に根ざした歴史の上で守られたものと思う
- ・竹林の中を歩き、すがすがしい思いがした。
- ・砺波地方とよく似たところもありますが、スギが砺波より少ないように思いました。
- ・古黒部地区のカイニヨに感心した。そこまでやれることに、ただ「りっぱ」
- ・竹のカイニヨに圧倒された。
- ・どこの市町村でも一人暮らしでカイニヨの整理が大変で枝打ちしてもお金がかかり、立木伐採したいと思っています。
- ・カイニヨの種類に感銘しました。 土地柄・気象条件によるものだと思います。門をくぐった瞬間、屋敷の中に竹があり、あぜんとしました。又、松の木・えごのき等、砺波のカイニヨとは違いました。
- ・屋敷林に松が多く使われていたお宅のご主人は、掃除が行き届かないと恐縮していらしたのですが、大いに共感しつつも、自然にまかせてあるのもいいじゃないかと思いました。
- ・砺波平野の屋敷林は実に美しい風景です。
- ・庭掃除の楽しさを学びました。
- ・夏は日陰になってよく、冬は風雪を防いでくれる。
- ・竹が美しかった。 管理しただいであそこまで美しく保存出来る事に驚きました。
- ・見事な景観と散居村の屋敷林を眺める側にとっては、素晴らしく魅了し、県外から嫁に来た私はびっくりでした。 でも今は、生活様式の変化や屋敷林に対する意識が変わってきて、そこに住む人達は維持して行く事の大変さを感じます。
- ・屋敷林を荒らさず残す運動をして下さる方々に頭が下がります。
- ・屋敷林の保存には東西問わず大変と感じた。
- ・海辺は松。水はけが良く土地に水分が少ない。しかし、竹藪が大きくある。この事は、土地に水分が多い事。黒部川の伏流水があるから。（沢スギは伏流水で育っている）平野部はスギやケヤキ（適度な水分） 山間部は落葉樹（土地に保水力あり）。黒部は海から山まで非常に近く、平野海岸付近で、竹も育つ。逆に松など他の海辺地域に比べ少ないのではないか。広くカイニヨも含め樹木の分布について整理が必要。
- ・安定したカイニヨもあるが全体として「無」に近い。
- ・2軒の典型を維持するための総合的な応援が急がれる。
- ・松が入っている家が多い。
- ・マツ中心で迫力がある。ヒマラヤシーダーは違和感がある。
- ・時間。空間的にスケールの大きいカイニヨをみせてもらった。竹林は素晴らしい。

3) 黒部散村と砺波の散村を比較して感じたこと

- ・ 砺波地方の散村は規模が大きいと思う
- ・ 砺波地方でも、砺波市と南砺市を比べると砺波市の方がだんだん屋敷林が少なくなっている中、台風23号の後、特に杉が少なくなった。
- ・ 3000mの山からいきなり海へ、どとどの様に流れ落ちる散村として、砺波とは全く違い、見学出来て良かった。
- ・ 見ただけだと砺波散村と似ている。しかし、海の近くだからなのか松の木が杉より多いようでした。
- ・ 黒部は、海岸線近くでは散居村になっているが上流では、散居になっていない。これは、黒部川の過去に起きた災害等を考慮して今の散村形状になったんだろうと自分なりに考えて納得納得??
- ・ あまり違和感はなかった。
- ・ 核家族になり屋敷林の世話が出来なくなった。
- ・ 門をくぐると竹林に圧倒された。
- ・ 竹も杉も松もその他の樹木もそれぞれの役割をもって家を守っている強さを感じました。
- ・ 黒部は、松が多い。砺波はスギが多い。
- ・ 砺波の方がずっと美しい。
- ・ 砺波の屋敷林（スギの木）に比べ、黒部の屋敷林は松の木であった。
- ・ 孟宗竹の庭は見事でした。
- ・ 黒部川扇状地の開墾の歴史は砺波より浅く、広さも狭く（山から海まで近い）、土地の傾斜も大きく、耕作土も薄いだらう。 砺波より耕作は難しい。 よって、砺波のように、散村形態に成りきれないのか？ そのため、各家のカイニョも少ない。 のでしょうか？
- ・ カイニョの利便中心の尺度からみるならどち等も不要とされている
――それが今の姿と思われる。
- ・ 家屋の高さ程度のカイニョが、まだ、砺波の方が残っている。
- ・ 黒部は綺麗な自然環境に恵まれている。 散居村集落として砺波とバラつきが違う。昔の川の流れにそって住みついたように思われる。

4) その他

- ・ 遊歩道を歩き展望台の眺めを楽しみました。
- ・ 次回も楽しみにしています。
- ・ 元300石の市岡宅の、軒樋に落ち葉がたまり、草が生えている。だれか、ボランティアで掃除をしてあげたらよいと思った。 もしも、砺波から行くのであれば参加したい。建物が早く傷み大変な事になる。
- ・ いい企画であった。これにこりず、またお願いします。
- ・ 年1・2回、この様な企画があると勉強になり、身体にもいいし、楽しいです。
3000円の価値はあります。
- ・ 行政でカイニョにたいして政策を打ち出して欲しい。
市長と語る会を企画しては如何でしょう。建築許可の中で植樹する事を条件のひとつにする。 高樹種には補助金を出しカイニョの保存をする。

- ・ カイニョ倶楽部で歳を重ねた木々を拝見させてもらうたびに、この杉の周りで、どんなことがあり、何を見てきたのかと思います。 文化財に指定されていない古い木にも歴史があるはずで、そんな古い木にスポットをあてた（解説付き）ツーリングがあれば嬉しいです。
- ・ 大変楽しく過ごしました。
- ・ 古い家の横に若い人達の新しい家を建て、年寄りが居なくなり、古い家も木もいらなくなる。
- ・ いい企画でした。本当にありがとうございます。
- ・ この見学会は本当に良かったです。
- ・ 楽しく見学させてもらってありがとうございました。
- ・ 呉東方面はあまり行かない所なので、いろいろ見学できてありがとうございました。
- ・ 是非、次回も計画をして下さい。
- ・ 良き景観を残す為に議論と市に提案が必要。建物・カイニョ・他建物・街路樹・田畑も含め。
- ・ 黒部川扇状地研究会と意見交換会をすればよい。
- ・ 足をくじいたが、順調に回復しています。
- ・ 疲れたのが良かった。又、大変楽しかった。



(参加者の笑顔の集合写真)